

正 誤 表

「コンパス天然物化学（第1刷）」

下記の箇所に誤りがございました。謹んでお詫びし訂正いたします。

頁	該当箇所	誤	正
16	図2・3	略 右図に差し替え (逆相系の構造式を修正)	<p>極性官能基が少ない化合物 (疎水性の化合物) → 固定相との相互作用が弱い → 移動相によって移動させられやすい</p> <p>極性官能基が多い化合物 (極性の高い化合物) → 固定相と静電的相互作用しながら移動 (移動が遅い)</p> <p>順相系</p> <p>小さい ← 順相系での溶出力 → 大きい</p> <p>疎水性 (極性が低い) ← クロマトグラフィーでよく利用される溶媒 → 親水性 (極性が高い)</p> <p>メタノール、エタノール、1-プロパノール、酢酸エチル、ジエチルエーテル、ヘキサン、クロロホルム、シクロヘキサン</p> <p>大きい ← 逆相系での溶出力 → 小さい</p> <p>逆相系</p> <p>極性官能基が少ない化合物 (疎水性の化合物) → 固定相と疎水性相互作用しながら移動 (移動が遅い)</p> <p>極性官能基が多い化合物 (極性の高い化合物) → 固定相との相互作用が弱い → 移動相によって移動させられやすい</p> <p>図 2・3 順相系と逆相系のイメージ</p>

図5・1

略 右図に差し替え
(PEP の構造式を修正)

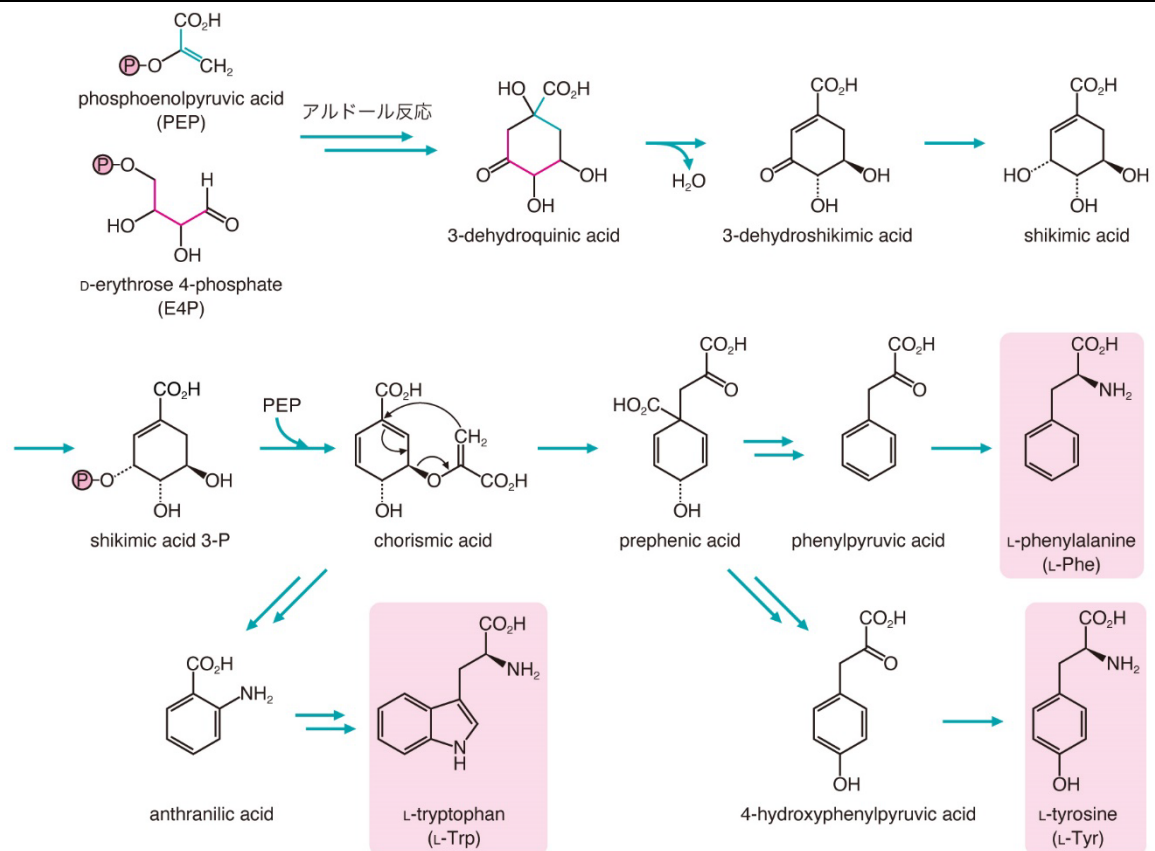


図5・1 シキミ酸経路により生合成される芳香族アミノ酸

図 5・2

略 右図に差し替え
(リグナンの基本骨格を修正)

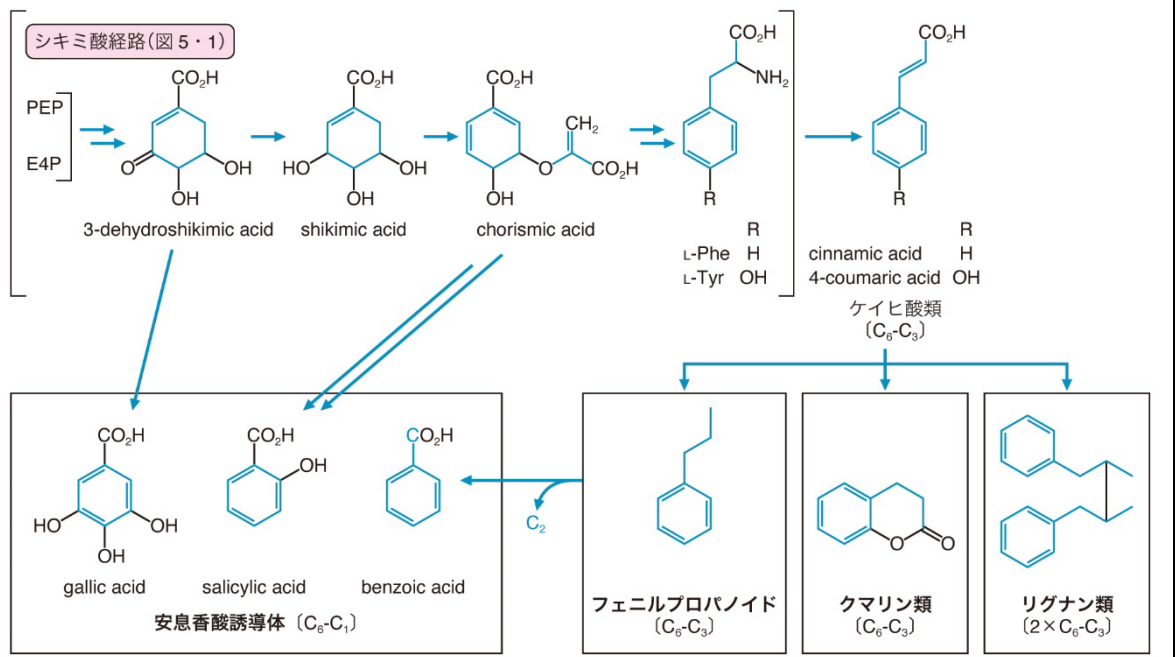


図 5・2 シキミ酸経路由来の芳香族化合物

69	<p>図5・6</p> <p>略 右図に差し替え (phloroacetophenone の構造式を修正)</p>	<p>acetyl-CoA</p> <p>malonyl-CoA</p> <p>tetraketide</p> <p>octaketide</p> <p>aldol condensation (アルドール縮合)</p> <p>Claisen condensation (クライゼン縮合)</p> <p>endocrocin anthrone</p> <p>endocrocin (anthraquinone)</p> <p>orsellinic acid</p> <p>phloroacetophenone</p> <p>図5・6 ポリケチドの生合成反応(酢酸-マロン酸経路)</p>
185	<p>tetrodotoxin の構造式</p> <p>略 右図に差し替え</p>	<p>tetrodotoxin</p>